

うしお

第 118 号

昭和 42 年 4 月

目 次

薩南海域に於ける 40 年度後半の海況並びに漁況の概要	漁 業 部	1
煮干いわしの製品と薬品	製 造 部	12
大口養魚場業務概況(2月分)	大口養魚場	14
定置観測(3月分)	養 殖 部	17
漁場観測速報(3月分)	〃	19
奄 美 短 信	大 島 分 場	21
業 務 概 況	編 集 部	22

鹿児島市城南町20番12号

鹿児島県水産試験場

薩南海域に於ける40年度後半の海況並びに漁況の概要

漁業部

I 海況の概況

(1) 月別概況

9月

沿岸域で表面水温27℃、沖合で28℃内外を示し昨年同期に比べると1~2℃低目となつたが昨年9月はやゝ高目であつたので例年に比べると大隅海峡並びにこしき島西部海域の沿岸域の他は大体例年並みと考えられた。又8月の沿岸下層水は異状に低目(3℃内外)となつていたがこれも9月の観測では昨年に近く回復した。

なお昨年は9月上~中旬を最高温期として以後降温期に転じたが本年は8月下旬頃が表面水温の最高温期であつた。

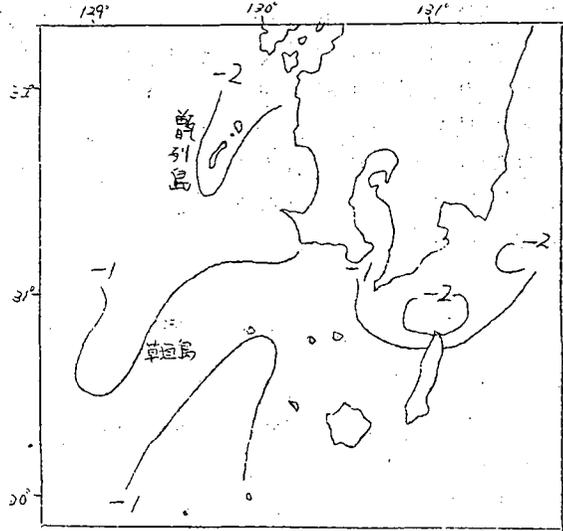


Fig 1 40,9と39,9の水溫比較(0m)

10月

前月より2~3℃内外降温し25~26℃となり県南西部海域は依然として昨年より1~2℃低目で特に草垣島~黒島方面の降温が大きかつた。又下層水もやはり昨年より低目で特に宇治群島~草垣島方面で2~2.5℃、鹿兒島湾口で2.5~3℃、臥蛇島方面の南部海域では1℃昨年より低目となつている。

なお大隅海峡では沿岸水の振出しも強かつたが黒潮本流域が接岸したため昇温し昨年並みかやゝ高目の水温となつた。

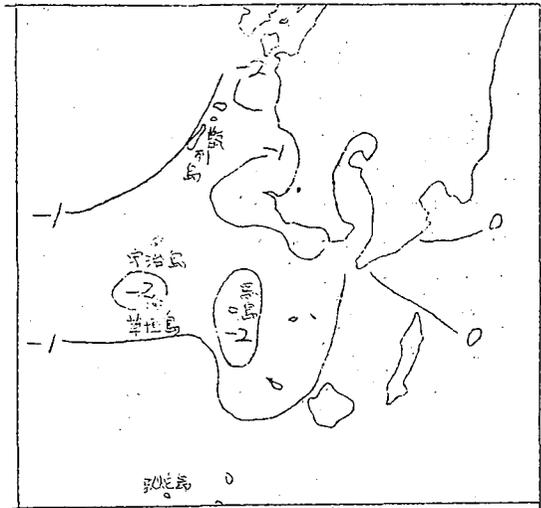


Fig 2 40,10と39,10の水溫比較(0m)

11月

大隅東部で23℃台、阿久根~串木野沿岸域で21~22℃程度。こし

き島近海で2.4℃台、沖合の黒潮流域で2.5℃台となつて10月に比べ1~2℃降温しただけで大体昨年並みの水温となり例年より高目に転じた。(昨年同期は例年よりやや高目の海域が多かつた)これは沿岸水の南下が弱く特に大隅東部での沿岸南下流(日向冷水)が非常に弱かつたこと、こしき島西沖からの暖水の接岸が大きかつたこと等が本海域が高目に転じた原因と考えられる。

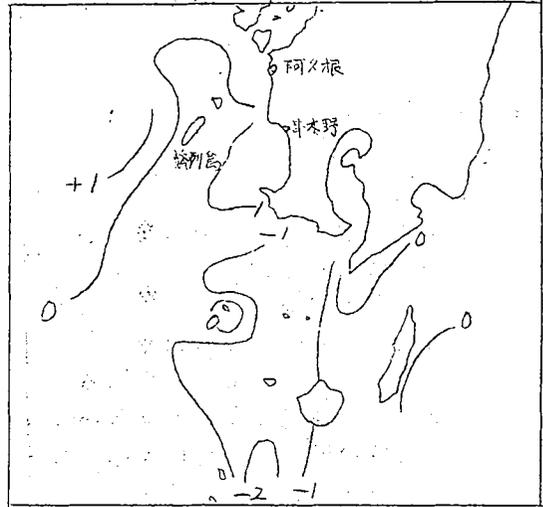


Fig 3 40,11と39,11の水温比較(0m)

12月

上旬、表面水温は2~3℃低下し大隅海峡で2.1~2.3℃、宇治群島近海で2.1~2.2℃、こしき島近海で1.9~2.0℃となつたがほとんどの海域が昨年より1~2℃高目となつた。

又、下層水の降温速度も昨年より遅く特に大隅海峡西部では12月は11月より高温となつた観測点もあり他の海域でも昨年より高目に転じた海域が多くなつた。従つて大隅海峡では11月同様沿岸南下流はなくむしろ11月以上に弱かつたこと。黒潮本流域の衰退が弱く、又こしき島西部からは11月同様、依然として暖水の接岸が見られたことが12月の特徴であつた。

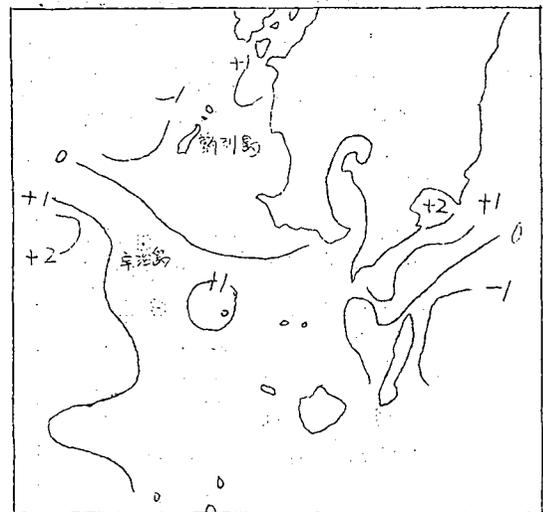


Fig 4 40,12と39,12の水温比較(0m)

1月

宇治群島方面で1~2℃、鹿児島湾口~屋久島北部にかけて1℃内外昨年より低目が観測された外は殆どの海域が昨年より高目で、それは12月以上に高目であつた。特に枕崎沿岸~草垣方面での降温が顕著でなく昨年より2~3℃高目を示し又大隅海峡でも1℃以上高目でこの海域の沿岸南下流も依然として弱かつた。

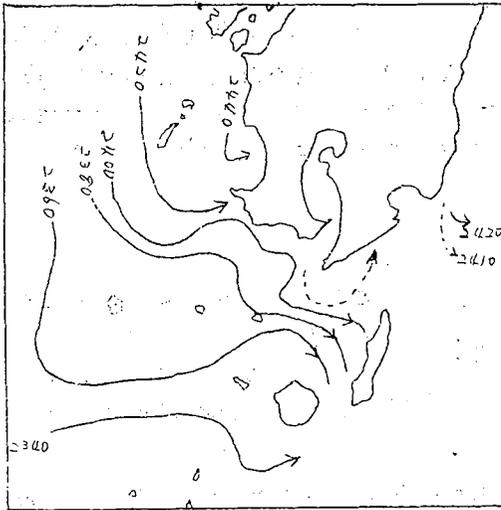


Fig5 40, 12 50m dt

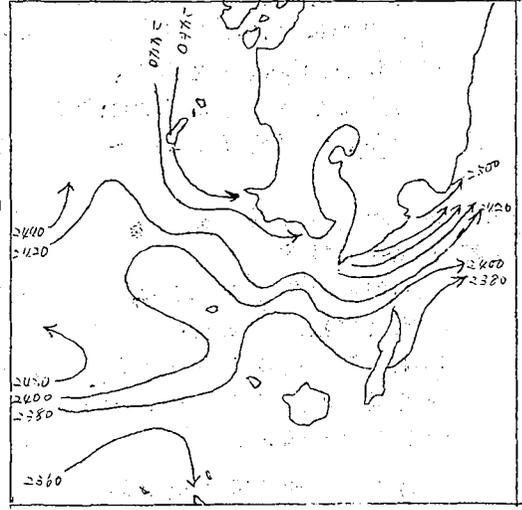


Fig6 39, 12 50m dt

なお1月はこしき島西部からの暖水の接岸は11~12月頃の如く発達しなかつた様であるが黒潮流軸の北偏か或いはそれが分流の枕崎沖への流入が大きく観えたためか(?)こしき海峡方面の沿岸水の南下を圧迫した事並びに上記大隅海峡での冷水の張出しが引続き弱かつたことなどから高温に経過した。

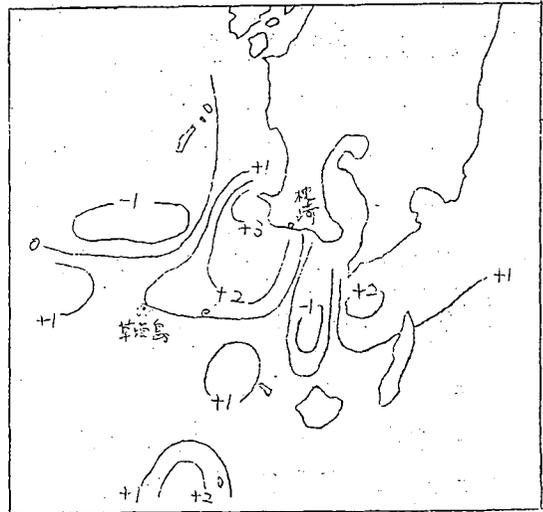


Fig7 41, 1と40, 1の水温比較(0m)

(2) 9月以降の特徴

- a、低目に経過した表面水温は9月で昨年より低目であつたが大体例年近くまで昇温した。
- b、8月の沿岸下層水の異状低温も9月では例年近く迄回復した。
- c、表面水温の最高温期は昨年より早く例年並みの8月中~下旬頃の様子であつた。
- d、水温の降温期になつてから10月頃迄の降温速度は割合大きく従つて水温は低目に経過し特に県西部海域で大きかつたが11月以降の降温速度は緩やかで12月以降は水温は高目に転じ1月現在では12月以上に高目となつた。
- e、10月以降の大隅海峡の沿岸冷水の張出しは本年度は特に弱かつた。

- f、こしき海峡方面の沿岸冷水の張出しも昨年より弱かつた。
- g、暖水系では11月頃はこしき島西沖からの暖水系の流入接岸が、又1月には黒潮本流の北偏或いは支流の流入(?)が見られた。従つて本海域の密度も小さく12月を昨年と比べて見ると(50m層)屋久島西方で0.20内外、沿岸域で0.20~0.60と低密度となつた。(Fig. 5, 6)

II 漁況の概要

(1) 旋網の概況

昭和40年(1~12月)並びに39年の枕崎、串木野港に水揚した旋網の入港隻数と主要魚種の水揚量を第1、2表に示し、月別水揚量と1隻当平均水揚量の前年との比較を第1、2図に示した。又9月以降の枕崎、串木野、阿久根港水揚の月別(9月以降)の魚種別組成と入港隻数を前年との比較で示したのが第3、4、5図である。

第1表 枕崎港の旋網による魚種別水揚量(1~12月) 単位 屯

年	入港隻数	水揚量	マアジ	サバ	ムロ	ウルメ
40	1,168	24,928.5	2,384.4	10,439.7	9,683.4	2,236.1
		100%	9.6	41.9	38.8	9.0
39	579	9,035.4	1,535.9	4,162.7	2,738.4	228.9
		100%	18.0	45.8	30.1	2.5

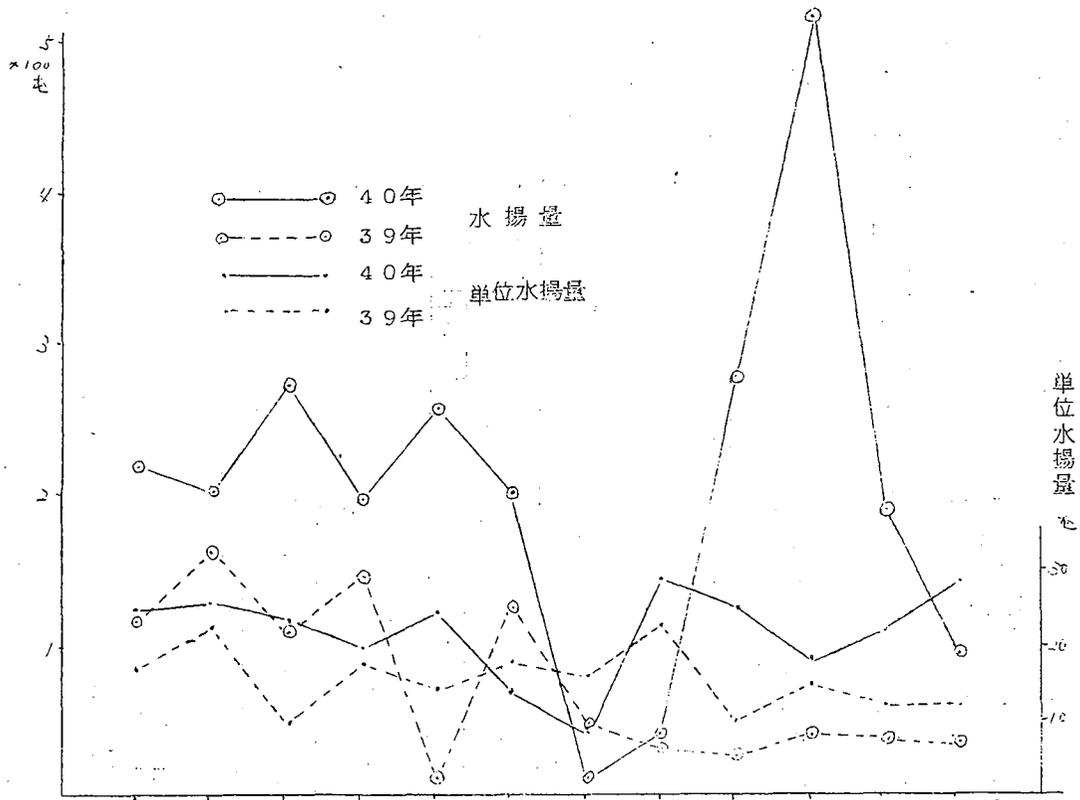
第2表 串木野港の旋網による魚種別水揚量(1~12月) 単位 屯

年	入港隻数	水揚量	マアジ	サバ	ムロ	ウルメ
40	481	3,364.6	1,037.3	1,670.9	440.8	107.2
		100%	30.8	49.7	13.1	3.2
39	568	3,353.8	1,144.5	1,244.2	844.5	29.2
		100%	34.1	37.1	25.2	0.9

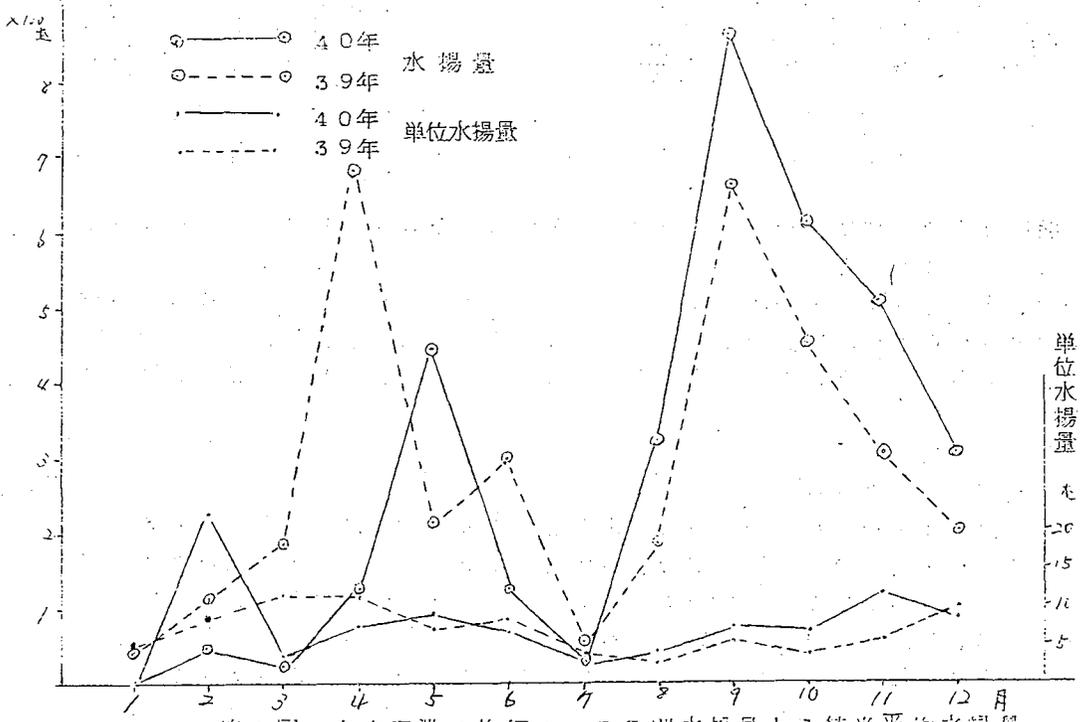
これによると枕崎港の40年の入港隻数は、前年の2.4倍、総水揚量は2.8倍となり各魚種とも前年より上廻つたが、特にムロ、ウルメ、サバの増加が著しかつた。

一方串木野港では入港隻数は前年より1.5割減少したが総水揚量は、前年より多少多くサバ、ウルメが増加し、ムロは減少した。又阿久根港の旋網による水揚(第4表)は、前年よりマアジ、サバは増加したが、ムロ、カタクチ、マイワシは減少した。

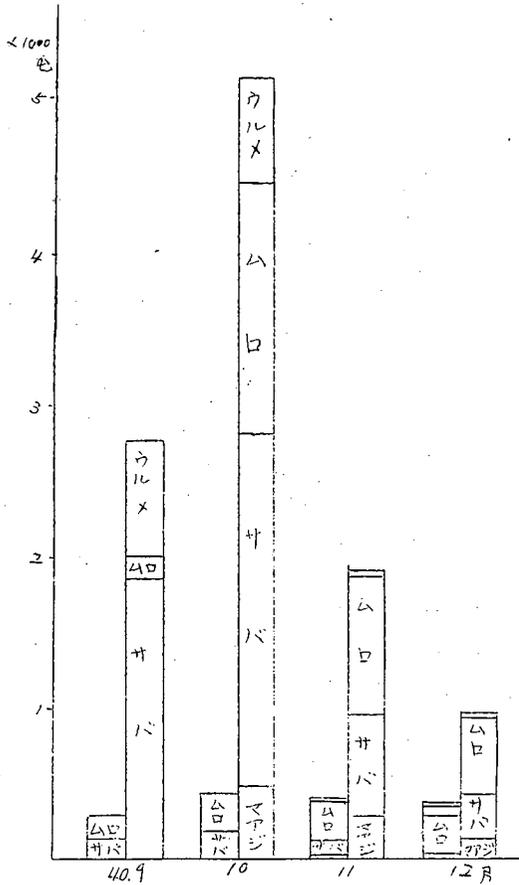
又月別水揚量を見ると、枕崎港(第1図)では9~11月に2,000屯以上の水揚がみられ、10月には5,000屯以上の水揚があつたが、これは枕



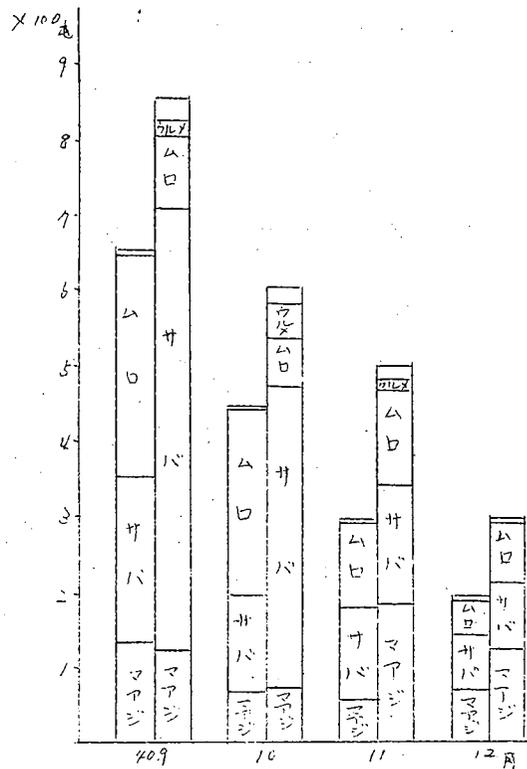
第1図 秩崎港の旋網による月別水揚量と1統当平均水揚量



第2図 串木野港の旋網による月別水揚量と1統当平均水揚量



第3図 旋網による魚種別
水揚量 (枕崎港)



第4図 旋網による魚種別
水揚量 (串木野港)

崎開閉沖合域並びに種子、屋久近海を主漁場にしたムロ、サバ、ウルメの好漁によるものであつた。

一方、串木野港(第2図)でも9~11月の秋漁が良かったが、これは野間~串木野沖合を主漁場にした小サバの好漁によるものであり、又、阿久根港では9、10月としき島、牛深海域を主漁場にした豆アジ、小サバの好漁が目立つた。

(2) 魚種別漁況

(A) 旋網で漁獲される魚種

沿岸主要魚種の水揚量の経年変化を枕崎入港の旋網による水揚量(33~38年...旋網漁業漁場別統計、農林省、39~40年...水試資料)と阿久根入港の旋網による水揚量(阿久根漁協資料)で見ると第3、4表に示すように、薩南海域ではマアジ、サバ、ムロ、ウルメともに前年より増加し、40年は各魚種とも近年まれにみる高い水準にあつたことがうかがえる。

イ、マアジ

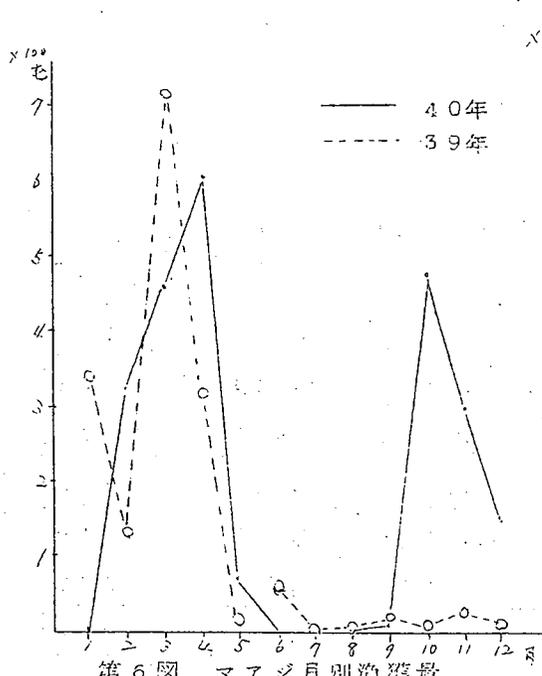
薩南海域（主に枕崎港水揚）では、2,384 屯の水揚で4.5割増加し、小アジ（62%）主体であつた。

10, 11月には枕崎～開聞沖合域と種子島南部を主漁場にしてムロ、サバとの混獲で、中アジ（57%）、小アジ（27%）主体に772 屯の漁獲があつた。（第6図）

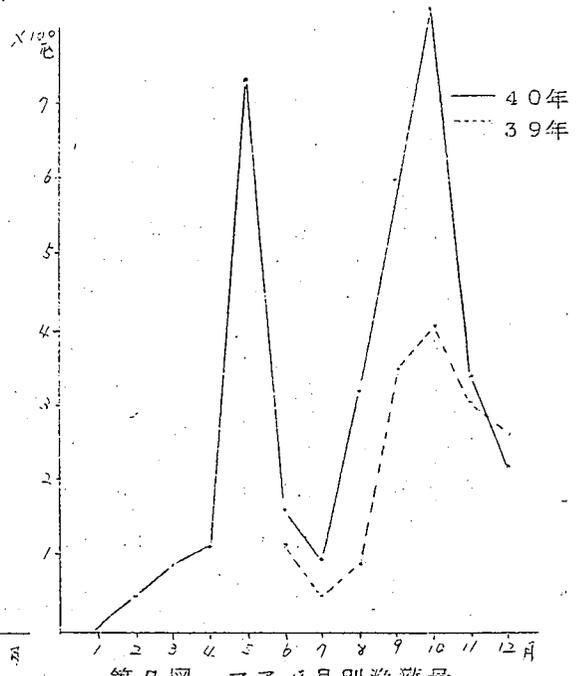
一方北薩海域（主に阿久根港水揚）では、3,462 屯の水揚で前年の2.5割増加し、豆アジ（49%）、小アジ（41%）主体であつた。月別には9, 10月としき島、牛深近海を主漁場にして豆アジ（69%）主体の好漁がみられた。（第7図）

第4表 旋網による主要魚種水揚量の経年変化（阿久根港）単位 屯

	マアジ	サバ	カタクチ	マイワシ
37	1,509	?	?	28
38	2,386	1,287	2,178	4
39	2,769	1,176	1,210	487
40	3,462	3,097	1,093	82



第6図 マアジ月別漁獲量
(枕崎港)



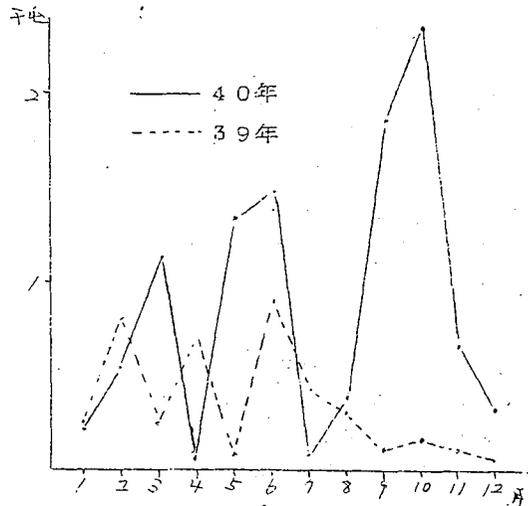
第7図 マアジ月別漁獲量
(阿久根港)

ロ、サ バ

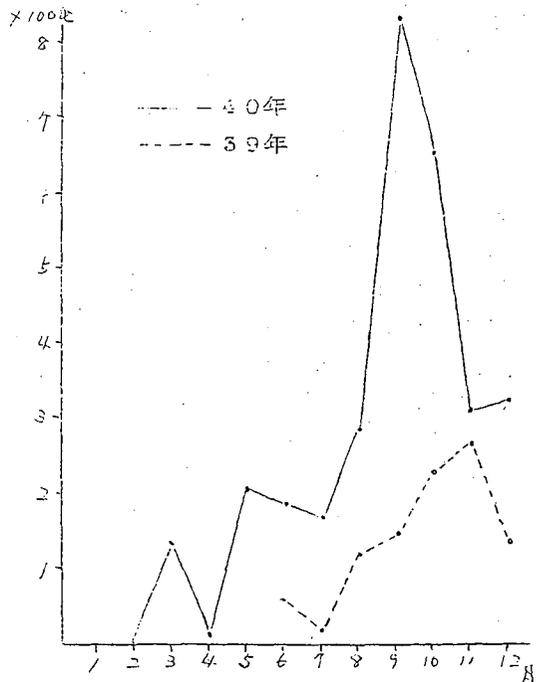
薩南海域では10.439吨の水揚で、前年の15割増加したが、魚体は前年の中サバ主体から小サバ(53%)主体に変つた。3, 5, 6月種子、屋久近海を主漁場に大中サバ主体の好漁がみられたが9, 10月には枕崎~開聞沖合域と屋久島下り曾根を主漁場に小サバ(82%)主体の好漁で大中サバの減少が目立つた。(第8図) 北薩海域では3.097吨の水揚で前年の16割増加し小サバ(70%)主体であつた。好漁であつたのは9, 10月でこしき島東部、野間~串木野沖合海域を主漁場に小サバ(70%)主体の漁であつた。又屋久島下り曾根を主漁場とするサバ天秤釣では、5~7月の中サバ主体の好漁は8月以降中小サバ主体にvari、魚価安の関係から出漁船も少なくなりあまり活潑ではなかつた。(第5表)

第5表 天秤釣によるサバ水揚量 (鹿児島港)

月	40年		39年	
	入港隻数	水揚量吨	入港隻数	水揚量吨
5	47	1762	0	0
6	143	519.0	11	30.1
7	149	358.0	25	60.2
8	38	83.6	16	43.8
9	38	61.3	21	69.6
10	28	58.9	31	55.6
11	62	126.1	6	8.5
12	15	29.5	0	0
計	520	1,412.6	110	217.8



第8図 サバ月別漁獲量 (枕崎港)



第9図 サバ月別漁獲量 (阿久根港)

ハ、ムロアジ

薩南海域では9,583屯の水揚で前年の2.5割増加し春、秋漁とも好漁であつたが、北薩海域では、秋漁が前年ほどでなく、串木野港では440屯の水揚で前年より約半減した。

ニ、ウ ル メ

薩南海域では2,236屯の水揚で前年の約1.0倍に増加した。月別には9、10月の好漁が目立つたが、これは枕崎～開聞沖合域、種子、屋久近海で主に漁獲された。

北薩海域では7、8月の好漁以後漁獲はのびず、740屯の水揚であつたが5～12月分計では前年の8割増加した。

ホ、カタクチ

北薩海域のカタクチ漁獲量を阿久根港、

港入港の旋網による水揚量でみると、1,092屯で前年の約1割減少した。又38年以降の阿久根港水揚量は逐年減少している。(第4表)

一方、鹿兒島湾内のカタクチを山川港入港の八田網水揚量でみると前年同様平漁で7月以降水揚はなかつた。

(第5表)

第6表 八田網によるカタクチ水揚量(山川港)

月	40年		39年	
	入港隻数	水揚量屯	入港隻数	水揚量屯
2	17	185	0	
3	54	338	0	
4	34	384	80	859
5	24	296	20	109
6	11	70	0	
計	140	1280	100	968

(B) ブ リ

33年以降県全体で600屯前後を上下していたが、39年は985屯と好漁であつた。

40年は前年ほどの好漁はみられず、鹿兒島湾口のブリ網付漁業では10～12月に8,738尾の水揚で前年の7.2割減(第7表)し、又、山川、枕崎、阿久根港への1～11月の水揚量は156屯で前年同期の4.2割減少している。

(第8表)

第7表 ブリ網付によるブリ水揚尾数(山川港)

月	旬	40年	39年
10	上	46	422
	中	1,763	905
	下	1,852	1,852
11	上	1,100	4,670
	中	1,921	6,198
	下	1,165	3,550
12	上	654	9,559
	中	184	3,339
	下	53	894
	計	8,738	31,389

第8表 山川、枕崎、阿久根港のブリ水揚量

単位 kg

月	山 川 港		枕 崎 港		阿 久 根 港		計	
	40年	39年	40年	39年	40年	39年	40年	39年
1	9,558	26,090	1,578	6,790	4,218	3,221	15,354	36,201
2	666	16,419	2,116	2,441	1,357	2,621	4,139	21,481
3	0	5,033	1,714	2,849	3,952	37,059	5,666	45,941
4	984	458	2,592	4,838	5,738	7,343	9,314	12,639
5	1,271	0	3,424	3,543	8,775	3,072	13,470	6,615
6	0	0	5,234	4,394	3,747	25,630	8,981	30,074
7	0	0	3,202	7,956	6,170	10,790	9,372	18,746
8	2	0	2,309	3,329	552	105	2,863	3,434
9	0	11	3,330	6,475	16,610	5,926	19,940	12,412
10	25,620	20,419	3,887	3,862	3,513	898	33,020	25,179
11	28,299	85,233	4,775	4,490	912	22,564	33,986	112,287
12		92,701		3,390		4,116		100,507
計	(66,400)	247,364	(34,161)	54,357	(55,544)	123,695	(156,105)	425,416

③ ヨ コ ヲ

40年12月はヨコオの漁獲は殆んどなく、41年1月中旬になつて枕崎近海で約50隻により1日1隻20kgのカツオに2%程度のヨコオが混獲されている程度である。

kgが適当です。

4、薬品使用について

水産物は腐敗し易いので、その長期保蔵と変敗防止については種々研究され多くの薬品が市販されています。

保存料として ソルビン酸、ネオシンセンB、フレッシューB
 油焼防止剤として BHA、BHT、タイリョウダイヤ、タイリョウA、T
 エルビットN、アネビトール品質向上剤としてタリンサンなどがあります。

5、薬品使用について

例1、煮干いわしの油の多い時期に油焼を防止するため煮水の $\frac{1}{10,000}$ のBHA、BHT又は分散性BHTを粉末のまま煮液が熱くなつてからかくはんしながら注加し、この煮液に魚を入れ普通の製法に従う。

又補給量として5釜目毎に、初め加えた量の2割を追加する。

例2、煮釜の液にタイリョウダイヤ $\frac{1}{500}$ 混合、又差し水の際はその都度差水の $\frac{1}{500}$ を補充する。

例3、上記薬品の単位使用の外相乗効果をはかるため保存料(ソルビン酸)油焼防止剤(分散性BHT)品質向上剤(タリンサン)を併用する場合は下記要領が適当です。

効果	薬品名	使用量	使用例	原量 処理	製品1kg当 薬品代
保存料	ソルビン酸	煮水の $\frac{1}{1000}$	1石5斗釜(270ℓ) 薬品 270g	kg 150	8円10銭
油焼防止剤	分散性 BHT	" $\frac{1}{4000}$	" 67g	150	2円85銭
品質向上剤 (頭落ち防止)	タリンサン	" $\frac{1}{6000}$	" 45g	150	67銭
計					11円67銭

(注) なお上記薬品は5釜使用後更に20%の薬品追加により150kgの原料処理が可能と考えられる。なお処理原料の増加につれ下表のとおり薬価低廉となる。

処理原料	製品	生原料1kg当	製品1kg当り
150kg (5釜)	40kg	3.10円	11.62円
300 (10釜)	80	1.87	7.00
450 (15釜)	120	1.49	6.60
600 (20釜)	160	1.34	5.02
750 (25釜)	200	1.28	4.82

6、乾燥場の条件

- (1) 湿地をさけること。
- (2) 地質の硬い場所を選ぶこと。
- (3) 土地の色を選ぶこと。

黒又はかつ色の土はよく射熱の吸収が早く地温が早く上昇するため煮干いわしの様に地上に拡げて乾燥する場合は濃色の土地がよい。地上に柵を作つて乾燥する場合は地上2尺以上とし反射の強い白色の地面がよい。

- (4) 風通しのよい場所を選ぶこと。

大口養魚場業務概況（2月分）

大口養魚場

1、概況

2月に入りふ化管理中のます卵もその一部が浮上をはじめいよいよ餌付けを始めた。浮上稚魚は1尾平均0.12g、全長2.3~2.4cmである。

当場の採卵も昨年の12月からはじめ2月11日で終了した。採卵した♀親魚は444尾になり採卵数は推定50万粒位になる。

12月から始められた場内の整備工事も3月上旬に完工の予定である。

まだ水温の不安定もあつて給餌は本格的ではなく体重維持程度にとどめている。

2、2月の飼育概要

飼育魚名	2月1日 推定飼育数	成 分 内 訳					3月1日 推定飼育数
		販売数	死 魚	供試魚	贈 与	不明減耗	
稚 ます (1年魚)	218,140尾	570尾	450尾	0	0	—	217,120尾
食用ます	426.1kg	55kg	0	0	0	—	420.6kg
親魚候補	2,426尾	0	8尾	0	0	—	2,418尾
親 ます	415尾	0	0	0	0	0	415尾
親 ごい	188尾	0	0	0	0	0	188尾
稚 ごい	417,110尾	0	—	0	0	—	417,110尾
稚ます浮上魚		0	4,350尾	0	0	—	400,930尾

3、給餌の概要

餌料名	魚種	ふ化稚ます	稚ます(1年魚)	食用ます	親ます
マス餌付用	№1	21.57 kg			
マス用配合餌料	№3		135.2 kg		
〃	№4		294.0		
〃	№5			94.0 kg	62 kg
フイードオイル			9.8	4.0	2.6

4、種苗配付状況

にじます稚魚

氏名	尾数	住所	種苗用途
林 邦利	110尾 アルビノ 60〃	薩摩郡宮之城町佐志	池中養殖用
徳田 勇	400尾	あい良郡横川町横川小学校	プール養殖用
計	570尾		

5、にじます卵及びふ化稚魚の管理

(1) 購入卵群(2月末日現在)

収容月日	産地	発眼卵数	死卵数	ふ化率	さ形及死魚数	浮上(餌付)尾数	備考
40 12 11	滋賀	100,000	15,540		3,130	81,230	2月2日より稚魚槽にて餌付
12 23	静岡	350,000	42,180		8,130	299,390	〃
41 2 3	長野	200,000					ふ化中
2 13	静岡	50,000					〃
計		700,000					

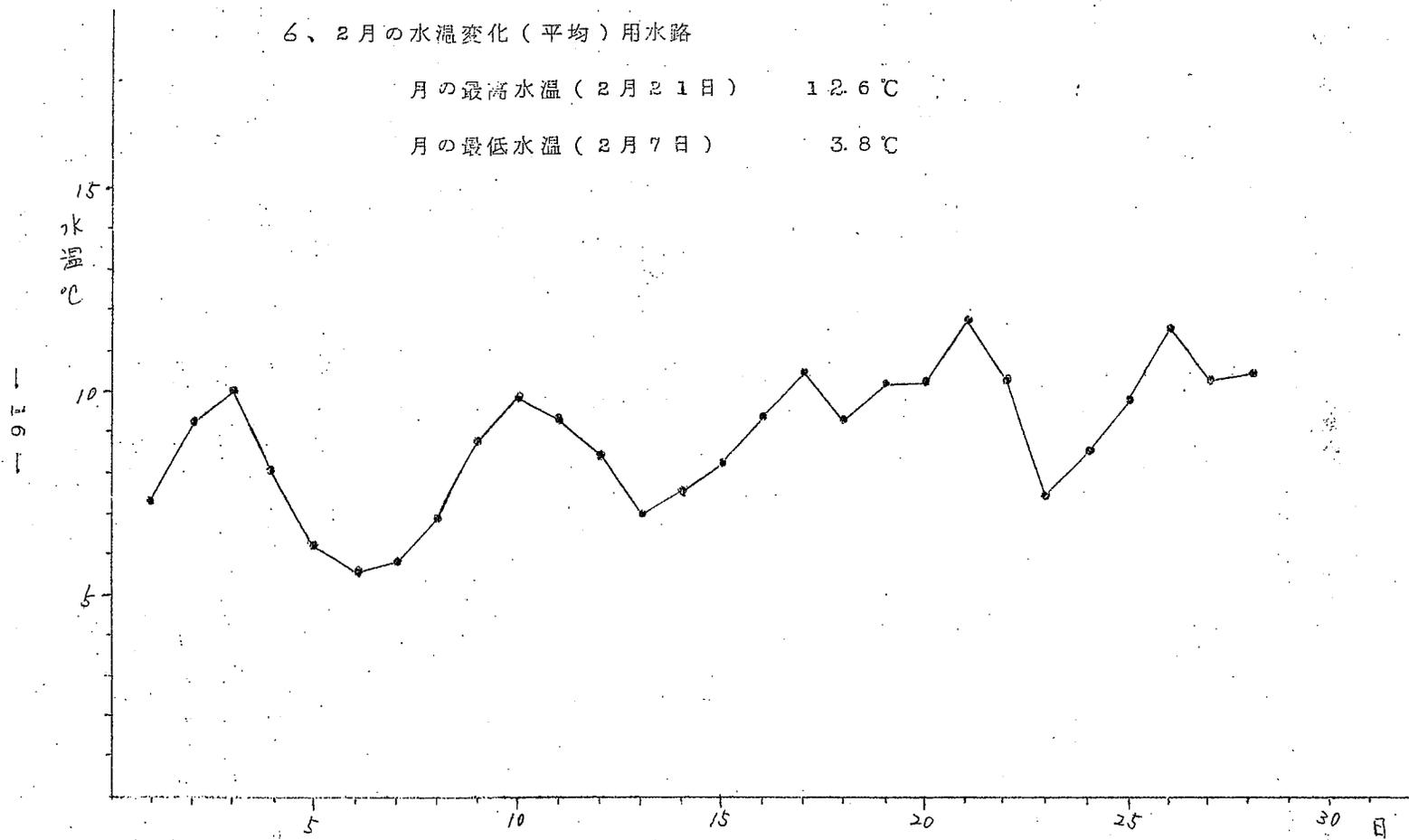
(2) 当场自家採卵群

採卵月日	♀親数	採卵数	発眼卵数	検卵数	発眼率	さ形及死魚数	浮上尾数	備考
40 12 17	20尾	35,900	26,210	9,690	73.0%	1,550	24,660	2月28日浮上
12 27	147	270,670	205,500	65,170	74.3			3月上旬浮上予定
41 1 11	126	178,310	141,800	40,210	79.5			〃 中旬 〃
1 19	68	85,880	66,800	19,080	77.8			〃 〃 〃
2 11	83	39,600						3月下旬 〃
計	444							

6、2月の水温変化(平均)用水路

月の最高水温(2月21日) 12.6℃

月の最低水温(2月7日) 3.8℃



7、今月の動き

2月7日 養鰻場案内 指宿

静岡県森原漁協長及び元浜名湖分場長飯塚三哉氏が指宿地方の養鰻視察に見えたため九工家具、大茂養鰻場等を案内。

2月9日 養魚指導 川辺

コイの造池法及びニジマス等について依頼によつて指導。

2月10日 造池指導 川内

依頼によりコイの養成池造成について助言を行なつた。

2月17日 養鰻適地調査 串良

2月16日～18日 適地調査 内之浦

利用可能な水資源が少なく企業の形態の立地条件を備えたところは見当らなかつた。

2月24日 内水面養殖研究発表会 鹿児島市

当场から魚病の基礎知識について発表。

定 置 観 測 (3月分)

養 殖 部

○ 旬別平均水温・比重(満潮時)

旬	水 温 ℃				比 重 δ_{15}			
	本 年	前 旬 差	前年同期差	平 年 差	本 年	前 旬 差	前年同期差	平 年 差
上	16.11	+0.79	+1.03	+0.88	26.85	+0.08	-0.37	+0.76
中	17.17	+1.06	+2.07	+1.85	26.42	-0.43	-0.92	+0.67
下	16.04	-1.13	+0.79	+0.41	25.77	-0.65	-1.28	-0.24
月平均	16.30	+1.04	+1.15	+0.91	26.04	-0.79	-1.14	+0.09

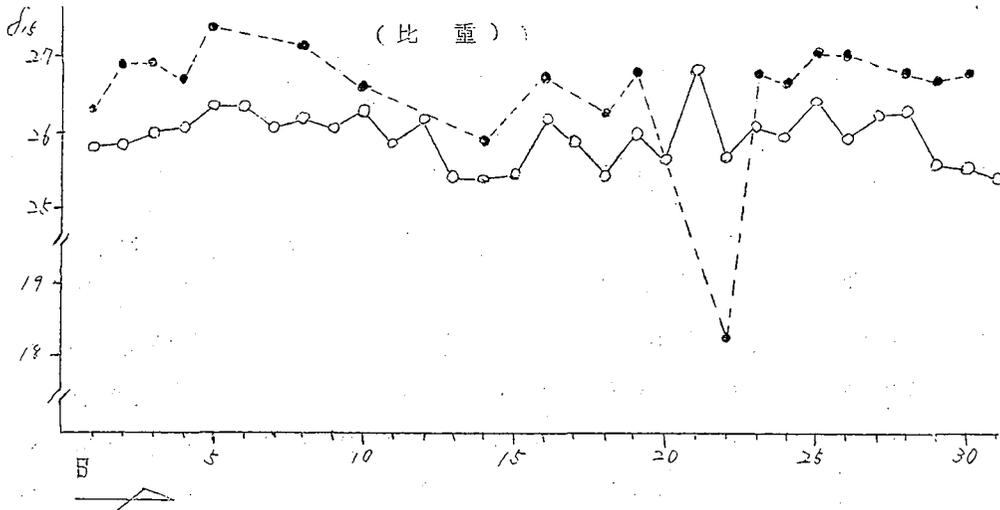
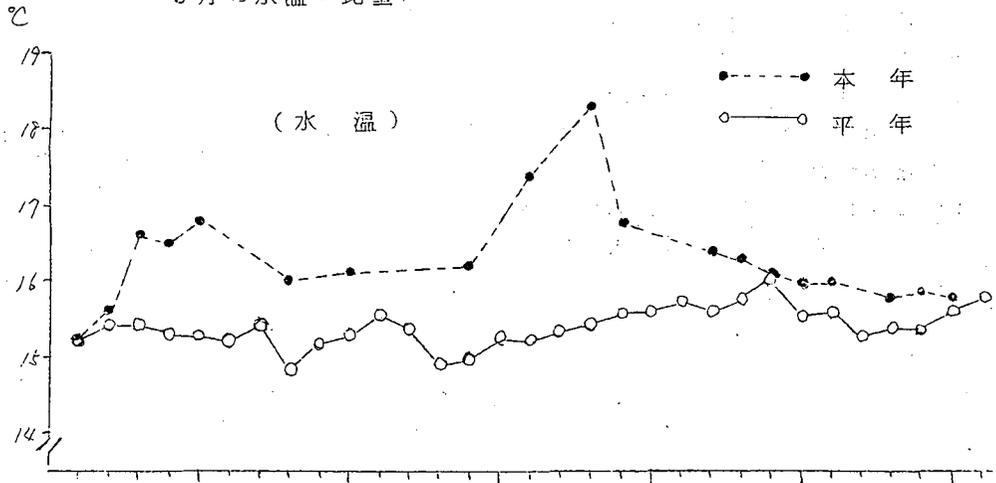
○ 水 温

15.2～18.3℃と大巾に変動した。一般に月間を通じて平年より高目を保ち特に上旬で0.9℃、中旬では1.9℃も高目を示した。中旬の17～18℃の水温は昭和28年の観測開始以来の記録的な異状高温であつた。従つて月平均水温は16.3℃と前月より1℃、平年水温より0.9℃の高温であつた。

○ 比 重

前月に引続き高かんを保っており、上旬の大雨でやゝ低目となり、下旬にも一時的暴雨で低かんを示した。

3月の水温・比重



漁場観測速報 (3月分)

養殖部

I 旬別平均水温

旬別	里		水成川		福山	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	20.05	18.40	18.24	16.91	16.51	16.18
中	18.66	18.44	19.81	18.06	16.48	16.17
下	19.68	18.54	20.25	18.10	16.42	16.01
月平均	19.83	18.46	19.48	17.73	16.46	16.11
前月差	+1.90	+1.92	+2.07	+1.97	+0.43	+0.33
前年差	+2.90	+2.07	+2.89	+1.62	—	—

- 里村の3月平均水温は19.83～18.46℃を示し、前月と比較して約2℃高くなっている。これを前年同期と比較すると、昨年同期の最高水温16.93℃よりも約3℃高く、最低では16.39℃よりも約2℃高くなっている。
- 水成川の3月平均水温は19.48～17.73℃で、前月に比較すると約2℃高くなっている。また、前年同期との比較では、昨年同期の最高水温16.59℃よりも約3℃高く、最低の16.11℃よりも1.6℃高くなっている。
- 福山の3月平均水温は16.46～16.11℃を示し、前月に比較して0.3～0.4℃高くなっている。
- 湾内の福山で前月から大きな水温変化はみられないが、湾外の里、水成川では前月からの水温上昇がみられ、また、昨年と同様よりかなりの高温を示している。
- 長崎海洋気象台の4月上旬の西日本海況旬報によると、東シナ海、黄海の水温は平年よりも暖かく、奄南、五島、対馬近海等の黒潮流域は平年よりも2～3℃高くなつた。今後もまだ全体的に高目の水温が続く見込みであるが、海況の変化がはげしいので、とくに陸地に近いところの水温変化には注意を要するとの事である。

II 漁況

1、里村

総漁獲量は7,880kgで、魚種別では瀬魚が4,850kgで全体の61%、イセエビが1,870kgで約24%、キビナゴで1,010kgで全体の約13%などである。

前月に比較すると、総漁獲量では約2,400kgの減獲となつている。魚種別には瀬魚が3,335kgの減獲となつているが、イセエビは1,315kg、キビナゴは520kgの増獲となつている。

また、昨年同月に比較すると、瀬魚の約9,000kg、キビナゴの約3,000kgの減獲となつているために総漁獲量でも10,000kg余りの減獲となっている。

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	
瀬魚	3	50	1,305	5	33	925	10	174	2,620	4,850
イセエビ	5	37	455	3	19	315	10	166	1,100	1,870
キビナゴ	2	2	235	3	5	670	1	4	105	1,010
コウイカ	3	5	90				1	2	45	135
タコ	1	1	15							15
計	14	95	2,100	11	57	1,910	22	346	3,870	7,880

2、水成川

総漁獲量は1,541kgで、魚種別には瀬魚が562kgで全体の36.4%、小ダイが400kgで全体の約26%、イセエビが272kgで約18%など、主なものである。

また前月に比して総漁獲量では約800kg余りの減獲となり、前月に全体

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	
瀬魚	4	12	105	8	23	287	6	18	170	562
小ダイ	1	2	15	5	8	105	9	27	280	400
イセエビ	3	8	52	4	13	70	5	17	150	272
コウイカ	2	7	34	2	6	27				61
ミスイカ	2	4	12	1	1	4				16
ハタ類	3	4	75							75
カワハギ				1	1	10				10
カツオ				1	1	45				45
タコ							2	4	45	45
サメ							1	1	40	40
カレイ							1	1	15	15
計	15	37	293	22	53	548	24	68	700	1,541

の20～40%を占めたキハダ、キビナゴなどが全く漁獲されず、鰺魚、イセエビ、タイなどがわずかに増獲されている。

昨年同期の総漁獲よりも約500kgの減獲となっており、鰺魚が約300kgの増獲となっているが、昨年全体の約70%を占めたキハダが全く漁獲されない。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 奄 美 短 信 ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

苦手の「うしお」寄稿係りが廻ってきました。さて何を書こうかと過去の寄稿盗用と頁をめぐって見ると奄美大島4月風景風物誌について先輩諸兄それぞれうん蓄ある持味で紹介され全く初夏の味わいが書かれており唯々現況と照し感深く読ませて戴いている次第で、とても風物誌等書く気になりませんので失礼させて戴きます。

分場の動きについては各係日誌にてご推察下さい。

4月と言えば我々勤め人にとって非常に多忙の月であります。新旧年度換えの事業整理、計画等本当に皆様ご苦勞様です。

然しなんと言つても4月の大行事は花祭りといふ児童の入学式でありましよう。新しいカバンをさげた我が子と連れ立つ若い母親の情景は将来への希望に満ち満ちて4月にふさわしい光景であります。

以上のような中であつて奄美大島の漁初めは何といつても「カツオ」一本釣漁業に始まり、それだけに期待もされております。本年の漁業者は3月中旬準備にかけ枕崎港等の好漁の情報に接し昨年の不漁分まで取返えそうと張切つて出漁を待つたのですが肝心の餌料(キビナゴ)不漁で期待はずれ、その結果あちら、こちらで原因探究の話題にされ、又廻遊異変かと一時はどうなるか不安もありました。4月11日どうやら初水場を見てほつと一息ついた次第です。以前、分場に勤務された先輩諸兄も同じ苦しみがあつたと見え大同小異毎年4月号「うしお」に初水場を祈りながら投稿されており全く辛勞なことです。奄美のカツオ漁は花祭り終了後(お釈迦様のご加護が薄いか誕生日祭りにご利益があるようで、早まつた殺生(魚)はお許さない?)に決つた感がする次第で、キビナゴ様にお教え下さいとおすがりしたい春でした。唯今本場から派遣下さつた試験船「かも

め」の廻遊調査に大いに期待しているところですが、その「かもめ」も自然のいたずら台風一号北上によつて待避をよぎなくされ古仁屋に釘付、静かな大島海峡には内外航路の大型汽船や漁船も多数避難中です。どうか、はるか沖合を通過下さるよう台風に祈ると共にいよいよ夏の訪れを感じさせる此の頃です。では皆様新年度事業に邁進し共に頑張りましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 業 務 概 況 ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 調 査 部

④ 40年度ハマチ養殖実績調査

牛根漁協、養殖生産組合、垂水漁協について調査。

(担当者 九万田一己、荒牧 孝行)

④ ハマチ人工餌料試験打合

4月1日、オリエンタルこう母工業 川仲川製造課長、日清製粉福岡営業所 本田所長、江川所員、41年度試験打合せのため来場。

④ 農薬の毒性試験

シエル化学製品SD7859の鯉仔に及ぼす毒性について試験。

(担当者 上田 忠男、弟子丸 修)

④ 41年度試験予定地の漁場測量

4月20日、試験予定地の磯海水浴場南側地先の水深・底質調査を行なう。

(担当者 畠山 国雄、九万田一己、荒牧 孝行)

④ 普及員会議出席

4月22日 上記会議に出席 (出席者 畠山 国雄)

④ 菱和飼料松岡課長代理(ハマチ人工餌料)、内ノ浦永野氏(ハマチ養殖)、東町漁協平田氏(タコ養殖)について来場。

○ 製 造 部

④ わかめ加工試験

わかめの高度利用を図るため、素干わかめ、塩漬わかめ、もみわかめ、板わかめ、冷凍わかめ等を試作し、商品価値を検討した。(製造部全員)

● 角煮製造試験

あじ、さば等の多獲魚を主原料としたかつお角煮様製品を試作し原料配合差による商品価値を検討して民間企業化の指導資料とした。

(担当者 藤田 薫、外)

● さばくん製試験

前回に引継ぎさばくん製品を冷くん法により試作し、商品的形態、調味方法につき検討した。

(担当者 木下耕之進、外)

● かつお腹皮くん製試験

かつお腹皮を原料とする冷くん製法につき指導した。

(担当者 木下耕之進、外)

● 凍結すり身貯蔵試験(継続)

● ソルブル製造予備試験 (担当者 是枝 登、外)

○ 漁 業 部

● 照 南 丸

4月1日～13日 出港。漁海況海洋調査。

4月13日 山川上架。

4月15日 鹿兒島帰港。

● か も め

4月1日～23日 出港。大島分場へ。

4月25日 バス魚礁設置予備調査(脇田沖)

○ 養 殖 部

● フジツボ調査

3月29日、4月19日に福山、奄ヶ水で1、2、4、6、8m層のフジツボの着生状況とアコヤ貝の成長などを調査。(担当者 前田 耕作)

● ノリ実験

アマノリの5品種について2月以来温度別生長実験を継続中である。特に3月からは10、13、17、20℃の温度範囲について幼芽の生長を観察中である。(担当者 新村 茂)

● ワカメ養殖試験調査

東町葛輪、谷山市、鹿兒島市(桜島、鴨池)で養殖試験中のワカメについて摘採し、成長並びに経済効果について資料取纏め中。

(担当者 瀬戸口 勇)

● アソビ稚貝飼育

去る11月15日、12月3日、12月8日の3回分のふ化幼生を止水、又は循環式で室内飼育中であるが、現在約600個の稚貝にはワカメ、ハバノリ等の生海藻や、緑藻や硅藻類の付着した天然の岩石を取り換え継続飼育中である。(担当者 山口 昭宣、椎原 久幸)

● ブリの採卵試験

牛根養魚場の4年ブリ(10~13kgもの)を対象に4月11日性腺刺激ホルモンのシナホリンを接注、人工採卵を試みたが、24、48、72時間後採精のみで採卵は出来なかつた。(担当者 山口 昭宣、椎原 次幸)

§ 大島分場

◎ 庶務係

特記事項なし

◎ 漁業係

4月3日かほめ丸入港。4月11日瀬戸内、宇検湾、キビナゴ集魚試験及び小型巾着網漁業試験途中台風1号発生、古仁屋待避。

14日~20日まで北大島、喜界島、集魚及び操業試験予定。

◎ 養殖係

マベ協会の揚水設備、設計施工準備。

40年度マベ採苗換え中(第4回)結果は5月号にて。

餌料生物培養試験.....天然海水による大量培養

海産熱帯魚飼育中。

◎ 製造係

加工場整備

未利用資源利用状況調査(名瀬市、竜郷村、沖永良部地区)

(担当者 武田 健二)

ウニ加工場実態調査(請島) (担当者 実島 可夫)